

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																										
大村美容ファッション専門学校		平成4年3月31日	斉藤 ちづる		〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2-6 (電話) 092-733-1766																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																										
学校法人大村文化学園		平成4年3月31日	理事長 大村 陽之介		〒810-0055 福岡県福岡市中央区黒門2-6 (電話) 092-733-1766																										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																									
文化・教養	ファッション専門課程	ファッションクリエイター科			平成29年文部科学省 認定	-																									
学科の目的	デザインと洋服の基礎知識や技術の応用、自分のプランを実現するための発想力とビジネス能力を身につけた真のファッションクリエイターを育成する																														
認定年月日	平成30年2月28日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
	3年 屋間							2700	960	0	1740	0	0																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
60人		30人	0人	3人	7人	10人																									
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末におこなう試験、実習の成果、履修状況などを総合的に勘案																										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日~8月31日 ■冬季:12月20日~1月11日 ■春季:3月13日~4月11日			卒業・進級条件	必要な時間数を履修している 教科課目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての科目が60点以上																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人・保護者と面談等をおこなって対処			課外活動	■課外活動の種類 町内行事への参加、学生自治組織、清掃ボランティア ■サークル活動: 無																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) オンワード樺山、TSlホールディングス、ファイブフォックス			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																										
	■就職指導内容 就職ホームルームによる担任からの指導 就職担当職員による個別の面談指導 など				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターン検定3級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>パターン検定2級</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス検定</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>スタイリングマップ検定</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>フォーマル検定</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	パターン検定3級	③	11	9	パターン検定2級	③	8	2	ファッションビジネス検定	③	12	10	スタイリングマップ検定	③	12	12	フォーマル検定	③	12	8
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																										
	パターン検定3級	③	11		9																										
	パターン検定2級	③	8		2																										
	ファッションビジネス検定	③	12		10																										
スタイリングマップ検定	③	12	12																												
フォーマル検定	③	12	8																												
■卒業者数: 12 人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																												
■就職希望者数: 12 人			■自由記述欄 台東ザッカデザイン画コンペティション 入賞1名 ラ・メティエダール パイ サスーンスクールシップ 優秀賞1名																												
■就職者数: 10 人																															
■就職率: 83 %																															
■卒業者に占める就職者の割合: 83 %																															
■その他 ・進学者数: 0人																															
(令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)																															
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 6% 令和2年4月1日時点において、在学者32名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者30名(令和3年3月31日卒業生を含む)																														
	■中途退学の原因 経済的問題、進路変更																														
■中退防止・中退者支援のための取組 日頃からの気配りや声掛けなどの強化、早めの気付きによる個別面談等の対処																															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有・無) ※有の場合、制度内容を記入 成績と面接で選考する特待生制度、スカラシップ制度																														
	■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)
当該学科の ホームページ URL	http://www.omula.com/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校が目指す「即戦力となる人材育成」を実現させるために、流行や変化の激しいファッション業界の動向に常に目を向け、授業科目についての進行過程や指導方法、授業をおこなう環境や使用する教材などの細かなところまで情報提供をおこなった上で、現在の業界において実際に必要な技術や知識を基として、企業や業界団体から改善点などの意見や要望をいただき、それを反映させた実践的なカリキュラム構築をおこないます。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学科ごとに教育課程編成委員会を設置(学則に記載)

- ① 本校教務課長から、次年度教育課程を教育課程編成委員会に提案
- ② 委員会で内容を検討
- ③ 意見や改善案を理事長に提出
- ④ 委員会からの意見・改善案を加味して、学校長が次年度の教育課程の内容を決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
小島 庸介	株式会社 ホスピタリティアント「グローイング」ジャパン	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
谷川 由美	フカヤ株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
田谷 修宏	大村美容ファッション専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(12月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年12月11日 16:00～17:00

第2回 令和3年2月1日 15:30～16:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

◎授業科目「販売ロープレ」について

- ・よりリアルな接客の必要性が求められるので、もっと学校側がアドリブ的な状況を設定して、臨機応変さを引き出しすのいいのではないか
- ・お客様役の学生にも、「臨機応変さ」が求める内容のお客様役ができるように、事前の指導を徹底する
- ・学校から指導を受けた対応一辺倒になっている傾向があるので、もっと個人ごとに接客の個性がでる指導をしたらいいのではないか
- ・販売のスキルアップだけではなく、その奥にある「お客様とは」ということを考えさせる

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コミュニケーション能力を持ち、顧客のニーズに合わせて柔軟に対応できる現場で即戦力となる社会人の早期育成をおこなうことを目的として、移り変わりの激しい業界の現在の状況を基にした指導や審査をおこなっていただき、自分に不足しているのは何なのか、実際に働く上で何が重要なのかを、学生自身に実体験として理解させることにより目標が明確になり、高い職業意識を持った人材の育成をおこないます。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

販売・接客の知識や技術を学び、ロールプレイング形式によるコンテストを実施し、その後にインターンシップをおこなうというカリキュラムの流れの中で、以下のような連携と協力をおこなっています

- ・審査基準の設定の協力
- ・授業での性別講師の派遣

「又本学の特別奨励金の点

- ・コンテストでの審査員の派遣(審査基準に則って学生を評価)
- ・優秀な学生への面接機会の提供
- ・インターンシップの受け入れ

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
販売ロープレ	<p>ロールは『役割』、プレイングは『演じる』＝ロールプレイング「模擬販売実演」</p> <p>設定時間内でロールプレイングを繰り返し実践します。販売知識や技術だけでなく、コミュニケーション能力・細やかな所作、言葉遣いも習得します。ロールプレイングコンテストを開催し、即戦力となる販売力を企業の方々に披露します。この取り組みで就職内定へ繋がります。</p>	株式会社 サンエー・ビューティー 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教育研修規程により、推薦学科における実践的職業教育の内容充実を目的として、その任にあたる教員の、ファッション業界における専門知識の向上及び教育者としての資質の向上を目的とする。特にファッション業界はトレンドの変化に敏感に対応するため情報収集力やアートや文化等幅広い分野への知識や技術、資質の向上を目的とする。

1. 教員の専門知識・技術の向上のためのプログラム

(ア)資格取得及び、その資格の認定講師の資格を取得するための研修

(イ)業界から講師を招聘し、業界の最新トレンドや技術を習得する研修

(ウ)企業が主催するコンテスト対策の授業

(エ)最先端のトレンド情報を収集しそれをデザインワークやスタイリングに活かすための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ファッショントレンドについて」(連携企業等:㈱サンエー・ビューティー)

期間:令和3年2月10日(水) 対象:専任教員3名

内容:現在のファッショントレンドについて、アイテム・カラー・ディテール・テキスタイルなどの状況解説と、今後の傾向について、実際に肌で感じている企業からの生の声を聴いて、学生への指導や情報提供に活かします

※コロナ感染者の発生により、中止になりました

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員研修」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会)

期間:令和2年8月19日(水)～21日(金) 対象:新任の専任教員2名

内容:専修学校における職業教育

専修学校教育のあり方と授業実践

専修学校と制度

学生・教員のための実践心理

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ファッショントレンドについて」(連携企業等:㈱サンエー・ビューティー)

期間:令和3年2月10日(水) 対象:専任教員3名

内容:現在のファッショントレンドについて、アイテム・カラー・ディテール・テキスタイルなどの状況解説と、今後の傾向について、実際に肌で感じている企業からの生の声を聴いて、学生への指導や情報提供に活かします

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員研修」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会)

期間:令和3年8月 対象:新任の専任教員1名

内容:専修学校における職業教育

専修学校教育のあり方と授業実践

専修学校と制度

学生・教員のための実践心理

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

在校生保護者・地域住民・関連企業・卒業生・業界団体の方々を学校関係者委員会のメンバーに選出し、事前に学校の理念や目的、目指す学生像を説明して充分にご理解いただき、目指すべき学校像を共通認識した上でご意見をいただき、学校運営の改善に活かしていきます。

そのために、委員会のメンバーには、自己評価の詳細はもちろんの事、評価をする上でその他の資料が必要とされれば提供をし、学校関係者への透明性を一番大事におこなっていきます。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ② 学校における職業教育の特色は何か ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ② 学生相談に関する体制は整備されているか ③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか ⑦ 保護者と適切に連携しているか ⑧ 卒業生への支援体制はあるか ⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③ 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生募集活動は、適正に行われているか ② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③ 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③ 財務について会計監査が適正に行われているか ④ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ② 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか ③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④ 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

就職をしてもメンタル面が弱くて仕事に差し支えがでたり、退職をしたりするのが年々多くなっているのを感じる。企業としても対策をしていくが、学校としてもメンタル強化に注目をしてやっていってほしい
 ⇒学校としても強く感じている部分なので、キャリア教育や人格教育の中でメンタル強化をおこなうとともに、教員には学生一人一人の様子を常に確認していきながら、早めの気付き・声掛け、早めの対処を徹底するように指示をした

「学校内はスマホ禁止」などよりも、いかに使いこなせるようにするかに注目した方が、就職してからも優位に立てることが多いので、その環境や教育も視野に入れた学校運営を考えていくのもいいのではないかと
 ⇒次年度中に全ての教室でWifiを整備して、まずは校内環境を整えるようにした

モデルハントを積極的に行い勉強になっているが、自分からしたらスタイリストの動きに違和感がある。「スタイリスト対応」ではなく、「教員対応」になっている。(上からの物言い、自分がやってしまうなど)
 学生にもっと(一般の)サロンモデルをやって欲しい。
 ⇒教員の意識が強くて自分達では気付きにくい意見だと思うので、時と場合によっては「学生が目指す職業の経験者」として 臨機応変に指導にあたるように、改めて教員に周知をした

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
甲木 輝彦	有限会社KATSUKI (ビューティビジョン協同組合)	R2年4月1日～R4年3月31日 (2年)	企業
隈本 達也	有限会社ダム	R2年4月1日～R4年3月31日 (2年)	卒業生、 企業
佐藤 安彦	(株)ぼたんや	R2年4月1日～R4年3月31日 (2年)	企業
津田 鶴太郎	津田産業(株)	R2年4月1日～R4年3月31日 (2年)	企業
松原 弘伸	(株)アスリード	R2年4月1日～R4年3月31日 (2年)	企業

吉田 二三男	黒門東部自治会	R2年4月1日～R4年3月31日 (2年)	地域住民
金森 理奈		R1年7月1日～R4年3月31日 (2年9ヶ月)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()
URL::URL:http://www.omula.com/
公表時期:令和3年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育活動や学校運営の状況などの情報を提供することにより、学校と学校関係者との共通理解を深め、強い信頼関係の構築を目指す。

特に、以前には公開していなかった学校評価や財務状況などについてを公開することにより、今まで以上に学校のことを知ってもらい、更なる教育活動の活性化や課題の解決、学校運営の円滑化につなげ、実践的職業教育学校としての社会的向上に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・卒業後の進路(就職者数、主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料免除の案内等)
(8)学校の財務	・収支報告書、財産目録
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()
URL: http://www.omula.com/

授業科目等の概要

(ファッション専門課程ファッションクリエイター科) 令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ソーイングテクニックⅠ	ソーイングに必要な道具の使用方法、基本的な縫製テクニックを学習します。業界で基本となるスカート、パンツ、シャツのディテール部分縫い手順、アイテム縫製手順を学習します。各アイテム製作終了後、作品プレゼンテーションを行います。	1通	120			○	○		○			
2	○		パターンメイキングⅠ	業界で最も基本となる原型を作図し、スカート、パンツ、シャツの作図手順を学習します。作図時間、縫製時間を設定し、時間内に作業が終了できるようにトレーニングします。	1通	120			○	○		○			
3	○		デザイン画Ⅰ	パターンナーにデザインやイメージを正確に伝えるためのデザイン画、平絵の描き方を習得します。イメージに適した画材を使って素材感や陰影の表現をします。デザインをする手順、考え方、ディテールやアイテム、シルエットの名称や構造、トレンドを学び新しいデザインを生み出し、表現する方法を学びます。	1通	120			○	○				○	
4	○		テキスタイル	多種多様なテキスタイルの原料・組成・組織を学びます。また、テキスタイルを構成する繊維の特徴を理解し、テキスタイルと被服の関係を学びます。	1通	45		○			○				○
5	○		ファッションビジネス	素材産業から、服の企画・生産・販売を行うアパレル産業、百貨店・専門店・量販店・小売店、流通などの広範囲な領域のビジネス活動の専門知識と、自らが希望する職種で活躍するときに必要な基礎的な知識（造形的知識・技術・流通など）を学びながら、検定対策を行い基礎レベルである「ファッションビジネス能力検定3級」取得を目指します。	1通	75		○			○		○		
6	○		スタイリングマップ	スタイリングマップ検定ジュニアレベル取得のための対策授業として、スタイリングマップの基礎知識を学習します。	1前	30		○			○		○		
7	○		コレクション解説Ⅰ	世界5大コレクションを中心に、ファッションのトレンド（アイテム・カラー・ディテール・テキスタイル）を学びファッション感度を高めます。ブランド・デザイナー毎の特徴を掴み、幅広いファッション知識を学習します。	1通	45		○			○		○		
8	○		服装史	服の初めから、どう時代の変化とともに服も変化していったかなど、時代背景を理解しながら流行を学びます。	1前	30		○			○		○		
9	○		マーケティングⅠ	売れるショップや売れる商品を、仕入・企画するための方法や手順を学びます。時代やトレンドに合わせて、ショップやブランドが誰をターゲットに、どんな商品を、いくらで、どのように売るのが、企画や仕入れをするための方法や手順、実例の戦略を学びます。	1後	15		○			○		○		

10	○		ショー企画Ⅰ	与えられたテーマやコンセプトに沿って、自らの世界観やイメージを表出し、ファッションショー作品を作り上げていく過程を学びます。また、クリエイションだけではなくビジネスの観点からも考えられた企画を立案します。さらに、第三者が見ても分かりやすい企画書の作り方を学び、効果的なプレゼンテーションを行うための技術も磨きます。	1 後	60				○	○		○		
11	○		ショー製作Ⅰ	デザインに合った素材を探し、パターンから縫製、リメイク方法など、それぞれに合わせて個別の指導をします。	1 後	150				○	○		○		
12	○		キャリアプランニングⅠ	業界を牽引する人材を育成するために、社会や業界での他者との接し方、自分の人生と将来の目標をイメージ出来るような学習を行います。また、アパレル業界で希望職種への就職を目指すために、職種についての基礎知識を習得します。	1 通	90		○			○		○		
13	○		ソーイングテクニックⅡ	ウール素材での裏付きジャケットを製作します。ウールの特徴と取扱い方、芯地や裏地などの副資材の使用法を知り、適切な縫製方法を学びます。デザインにより各ディテールの縫製を通じて応用を身に付けます。ジャケット製作終了後、プレゼンテーションを行います。	2 通	90				○	○		○		
14	○		パターンメイキングⅡ	原型を利用してデザインに必要なゆとりを加え、シルエット出しのためのダーツ処理を考慮した平面作図の方法を学びます。	2 通	90				○	○		○		
15	○		デザイン画Ⅱ	クオリティーをあげながら「スピード」を意識したドローイング反復練習をします。素材やシルエット、ディテールなどにこだわって商品企画やデザインをします。パターンを読み取ってデザイン画、平絵を描きます。	2 通	30				○	○		○		
16	○		アパレルCADⅠ	アパレルCADの基本操作から応用を学びます。また、基礎的なパターンの展開や工業用パターン作成を学びます。授業を通じて様々なアイテムの実習を繰り返し行い技術を習得します。	2 通	30				○	○		○		
17	○		コレクション解説Ⅱ	世界5大コレクションを中心に、ファッションのトレンド(アイテム・カラー・ディテール・テキスタイル)を学びファッション感度を高めます。ブランド・デザイナー毎の特徴を掴み、幅広いファッション知識を学習します。	2 通	45		○			○		○		
18	○		マーチャンダイジング	マーチャンダイザーに必要な能力と具体的な業務内容を理解します。マーケティング、情報整理、その活用について手法を理解し、商品の企画に活かします。材料計画の進め方と仕入先との折衝、展示会までの流れを習得します。製品調達の種類とその方法について、内容と違いを理解します。	2 通	90		○			○		○		
19	○		フォーマル検定対策	アパレル業界内外を問わず求められている、冠婚葬祭や男女別の正しいフォーマル知識を学び、日本フォーマルウェア協会が実施するフォーマル検定のブロンズライセンス取得のための内容を習得します。	2 通	45		○			○		○		

20	○		販売ロープレ	ルールは『役割』、プレイングは『演じる』＝ルールプレイング「模擬販売実演」設定時間内でルールプレイングを繰り返し実践します。販売知識や技術だけでなく、コミュニケーション能力・細やかな所作、言葉遣いも習得します。ルールプレイングコンテストを開催し、即戦力となる販売力を企業の方々に披露します。この取り組みで就職内定へ繋がります。	2通	60					○	○		○		○
21	○		特殊素材	様々な刺繍テクニック、レース地などの特殊素材の取扱い方などを学び、小物や雑貨などの作品を製作します。	2通	30					○	○				○
22	○		SHOP企画	もし将来自分のショップを立ち上げるとしたら、何から始めるのか、何が必要なのか、実際の空きテナントや物件を対象にショップを企画し、オープンするために必要な情報を収集・分析します。ショップ立ち上げまでに必要な経費、オープンしてからの毎月かかる経費、年間の予算計画、ショップのイメージをビジュアルで表現するパースまで作成します。	2通	45			○			○			○	
23	○		ショー製作Ⅱ	デザインにあった素材を探し、パターン製作から縫製まで行います。一部の洋服に関しては企画書に基づき、工場へ生産の発注を行い、指示を出します。	2後	240						○	○			○
24	○		キャリアプランニングⅡ	1年次の基礎学習をベースに、2年次での自分の考え方がどのように変化しているかを把握します。業界を牽引する人材を育成するために、社会や業界での他者との接し方、自分の人生と将来の目標をイメージ出来るような学習を行います。また、アパレル業界での就職を目指すために、具体的な就職活動の方法について学びます。	2通	105			○				○			○
25	○		ソーイングテクニックⅢ	トレンチコートの製作方法を学びます。ラグランスリーブの縫製方法、デザインに合わせた素材選び、副資材の種類や使用方法を理解し、丁寧なもの作りでクオリティの高い作品を製作します。	3通	90						○	○			○
26	○		パターンメイキングⅢ	フラットパターンメイキングとドレーピングの両方のアプローチでパターン作成を行います。正確な工業用パターンメイキングが出来るよう繰り返し作業します。	3通	180						○	○			○
27	○		デザイン画Ⅲ	デザイン画のタッチやテイストが個々に確立してきた中で、クライアントからのオーダーやカスタマーのニーズに合わせたデザインや表現が出来るように、条件やイメージに応えるクリエイション作品制作の訓練を行います。	3通	90						○	○			○
28	○		マーケティングⅡ	実践的な知識・技術・考え方を身につけるために、各学生は自身のアパレルブランドを立ち上げて、ブランド展開を考える授業を行います。そこでは、マーケティングの授業で学習した内容を加味して、事業展開をプレゼンテーションで発表します。	3通	45					○			○		○
29	○		商品企画	企業とのタイアップや産学協同企画により、クライアントの求めるニーズに合わせて企画、デザインし、提案・プレゼンテーションを行います。	3前	30			○				○			○
30	○		コレクション解説Ⅲ	世界5大コレクションを中心に、ファッションのトレンド（アイテム・カラー・ディテール・テキスタイル）を学びファッション感度を高めます。ブランド・デザイナー毎の特徴を掴み、幅広いファッション知識を学習します。	3通	45			○				○			○

31	○		VMD	VMDについての基本知識を学び、実際の既存店舗を分析し改善点を探り理解を深めます。レポートとしてまとめ、プレゼンテーションを行います。	3通	60		○		○		○
32	○		アパレルCAD II	アパレルCADの応用を学びます。パターン展開や工業用パターン作成の応用編を学び、授業を通じて様々なアイテムの実習を繰り返し行い、技術を習得します。	3通	30			○	○		○
33	○		ショー企画Ⅲ	自らがファッションショー作品のテーマやコンセプトを立案し、作品を作り上げていく過程を学びます。また、クリエイションだけではなくビジネスの観点からも考えられた企画を立案します。さらに、第三者が見ても分かりやすい企画書の作り方を学び、効果的なプレゼンテーションを行うための技術も磨きます。加えて、ポートフォリオの作成も行います。	3後	15		○		○		○
34	○		ショー製作Ⅲ	デザインに合った素材を選び、製作します。パターン作成から縫製まで、それぞれのデザインに合わせて個別の指導をしていきます。モデルに着用してもらい仮縫いしてサイズやシルエットの修正や変更を重ねます。	3後	210			○	○		○
35	○		キャリアプランニングⅢ	学生と社会人の違いを理解して就職する目的を学習します。また、履歴書やエントリーシートなどの書類作成や求人票の見方などの就職活動の手順や、社会人マナーやルールを学習します。さらに、業界で活躍されている方を講師として招き、リアルな情報や技術を集中講義して頂きます。	3通	105		○		○		○
合計					35科目		2,700単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必要な時間数を履修している 教科科目の3分の2以上出席 学期末試験において、すべての課目が60点以上	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	20週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。